

高倉だより

～令和元年度 後半学校評価結果を
お知らせします～



今年度後半も、アンケートへのご協力ありがとうございました。前半と同様のアンケートをとらせていただき、集計結果を前半の結果と比較して分析しました。後半の学校評価について報告させていただきます。



評価特集号

令和2年3月23日

京都市立高倉小学校

学校教育目標

よりよい生き方を求めて、誇りをもち、未来にはばたく高倉の子
～豊かに学び、表現し、高め合う姿をめざして～

集計結果（前半との比較）

◎…プラス評価 90% ○…80～90% 80%未満は数字

R1前半

R1後半

<確かに育む教育>

	児童	保護者	教職員		児童	保護者	教職員
① 学校の勉強がよくわかる	◎	○	◎		◎	○	◎
② 自分の思いや考えをすくんで伝え合う	○	○	◎		○	○	◎
③ 家庭での読書	75.4%	61.3%	66.7%		75.0%	62.2%	75.0%
④ 家庭学習	◎	○	◎		◎	○	◎
⑤ 最後までやりぬく	◎	○	◎		◎	○	◎
⑥ 見通しをもって学習 (学習予定表の活用)	○	63.4%	◎		○	64.3%	◎
⑦ 授業中の約束守って、集中して	◎	○	◎		◎	○	◎

▶ 4段階評価 そう思う・だいたいそう思う…**プラス評価**

あまりそう思わない・そう思わない…**マイナス評価**

<豊かさ・たくましさを育む教育>

	児童	保護者	教職員		児童	保護者	教職員
① 学校生活が楽しい・安心	◎	○	◎		◎	○	◎
② 思いややのある温かい言葉づかい	◎	○	◎		◎	○	◎
③ 友達と大切にし合う	◎	○	◎		◎	○	◎
④ 学校の決まりを守って行動	◎	○	○		◎	○	◎
⑤ 放課後・休みの日ルールを守る	◎	○	◎		◎	○	○
⑥ 学校・家・地域でのあいさつ	◎	79.8%	74.4%		◎	○	74.4%

<健やかな心と体を育む教育>

	児童	保護者	教職員		児童	保護者	教職員
① すくんで外遊び	76.1%	74.0%	○		76.1%	72.2%	○
② 食事の好き嫌いなく楽しく	○	76.4%	◎		○	○	◎
③ 朝ご飯	◎	○	△		◎	○	△
④ 安全な登下校	◎	○	◎		◎	○	◎
⑤ 自分の心や体を大切に	◎	○	◎		◎	○	◎

<高倉小の特色ある教育>

	児童	保護者	教職員		児童	保護者	教職員
① 地域学習・伝統文化の学習に興味をもって	○	78.5%	◎		○	77.8%	◎

<学校・家庭の連携>

	児童	保護者	教職員		児童	保護者	教職員
① 先生に話をしたり相談したり	79.3%	△	◎		77.7%	△	◎
② おうちの人と話をしたり相談したり	○	○	△		○	○	△



裏面で、「家庭読書」「あいさつ」「学校・家庭の連携」に関して詳しくご報告します。

「確かに育む教育」の①②についてでは、後半において良好な結果が出ています。これは、読解力を基盤とした授業を大切にしている結果の表れであると考えられます。ただし、種々の調査結果から、学力の二極化傾向が若干見られます。この結果を今後の授業改善に生かしたいと思います。また、毎年の傾向ですが、⑥については、保護者の方のポイントが低くなっています。(読書については裏面でお伝えします。)

「豊かさ・たくましさを育む教育」につきましても概ね良好な結果が出ていますが、マイナス評価をしている児童に対して、道徳や学級活動、各学級での生活の中で、お互いを認め合えるような活動を実施し、さらに自己肯定感を高めていくようにしたいと考えています。また、⑥のあいさつについては保護者の評価がやや上昇し、プラス評価が80%を超えました。(あいさつについては裏面で詳しくお伝えします。)

「すくんで外遊び」の項目は、毎年、後半は下がる傾向がありました。今年度はほぼ横ばいで推移しました。

「地域学習・伝統文化の学習」の項目は、以前に比べると評価が上がってきた。特に、今回児童の評価が90%を超えており、意識が高まっていることがわかります。ただし、保護者の評価は毎年のことですが、やや低くなっています。

学校評価アンケートは、外部評価(他人を評価するもの)ではありません。このアンケートは、当事者評価(学校を作っている教職員・保護者・地域が自分たちの取組を振り返るもの)であるため、記名をお願いしております。記名をすることでともに学校をよくしていく方法を模索していきたいと考えています。

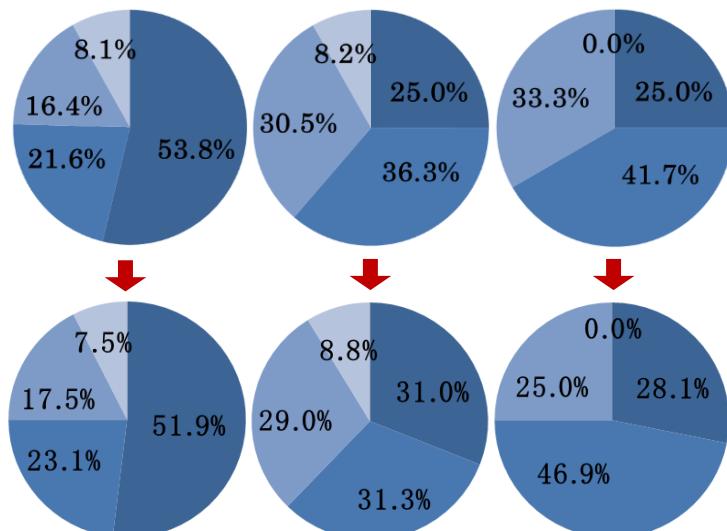


アンケート結果より（前後半 三者比較）

【グラフの上段は前半の結果、下段は後半の結果】

家庭読書について

Q. 家で読書を楽しんでいますか。



前半と後半の結果を比べてみると、プラス評価は、児童が横ばい、保護者がプラス1ポイント、教職員がプラス8ポイントでした。子どもたちの学校での様子をみると、朝の読書タイムやムーミンたいむの取組などから本校は本好きな児童が多いことがわかります。また、左に記載しております学年別図書館の貸出冊数も今年度は3月に臨時休業が実施されたにもかかわらず大幅に増加しました。

学校では、今年度、学校読書を家庭読書につなげる取組として、読書を家庭学習に位置付ける取組や2・4・6年生対象でブックトークを行っていただく「おはなしの森」を実施いたしました。

また、PTA図書室と歩む会の皆様には、「おはようおはなし会」や「わくわくおはなし会」、日常的な図書館開館等を行っていただいています。さらには、スマイル21プラン委員会（学校運営協議会）の読解部会の皆様にも1・3・5年生対象の選書会を開いていただきました。これら様々な取組が本好きの子どもたちを育むことにつながっていると考えられます。

種々の調査結果からも読書に興味をもっている子が多く、全国に比べても読書をしている割合は多いと考えられます。ただし、読書は好きだが、家庭で読書をする時間があるかどうかというと、習い事などで忙しい子が多く、本を読んだり、外で遊んだりといった時間が取れていないことが調査結果から読み取れました。これは、本校の特徴であり、課題でもあるところです。家庭での時間の使い方を今後も注意深く見ていく必要があります。

今年度は、昨年度に比べ、図書館での貸出冊数が大幅に増えました。学校やPTA、学校運営協議会の取組が活発に行われている結果であると考えられます。特徴としては、高学年になるにしたがって1冊の本のページ数が多くなるので貸出冊数が減るという傾向が見られます。また、低学年は授業の時間に図書室に行くこともあるので貸出冊数が増える傾向があります。

選書会の様子

学年別図書館の貸出冊数 (H30・R1)

(冊)	平成30年	令和元年
1年	5963	8342
2年	4210	5100
3年	1364	1706
4年	914	1483
5年	947	1482
計	13404	18280

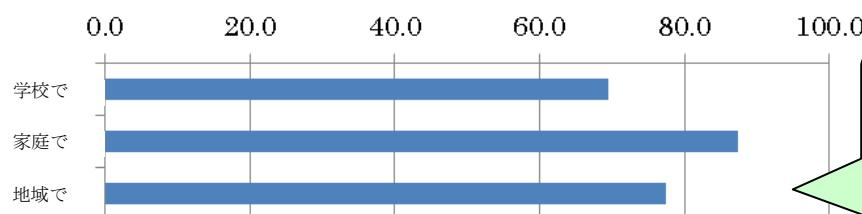


あいさつについて

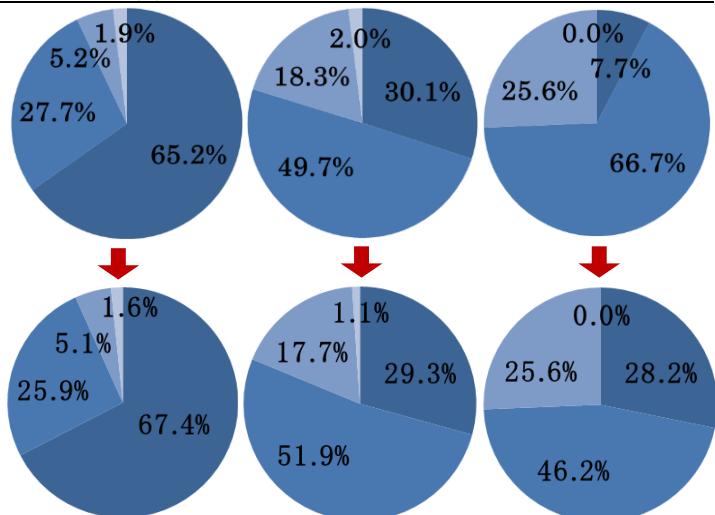
プラス評価は、児童が横ばい、保護者がプラス1ポイント、教職員が横ばいとなりました。後半も引き続き、児童会の呼びかけにより、クラスごとに「朝のあいさつ運動」を行いました。たくさんの子どもたちが積極的に参加し、気持ちのよいあいさつを行っていました。また、教職員も子どものお手本となるようにあいさつ運動に参加したり、校内でのあいさつを意識的に行ったりしています。

しかし、今回の結果でも教職員は少し厳しく見ていたようです。教職員からは、「あいさつをしても返ってこないことがある」「相手意識が低いと感じることがある」「あいさつは学級ではよくできているが、担任以外の先生や地域の方へのあいさつの意識が低いと思う」といった声があがっています。また、「児童へのアンケートだと『あいさつはできている』と自己評価している児童が多いことからも大人と子どものあいさつの意識のずれがあるのではないか」という意見も出ていました。

また、地域の方や保護者の方からも、「あいさつをしてくれる子としてくれない子がいる」「保護者のあいさつが少ないことが、子どもに影響しているのではないか」というお声があがっています。今後、さらによいモデルを大人が示し、地域力を高めて、地域全体で大人も子どももあいさつの意識を高めていく必要があると考えています。下記に子どものあいさつの意識のデータを記載いたします。



Q. 学校や家、地域ですすんであいさつができますか。

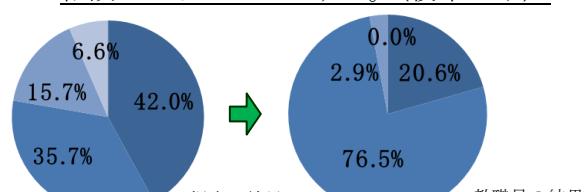


「学校・家・地域のどの場面であいさつがすすんでできているか教えてください」という質問の結果です。この結果を見ると、子どもたちは家ではしっかりとあいさつができるのですが、特に学校ではできていないと答える子が多いということがわかります。もう少し学校や地域であいさつがすすんでできるようになるとよいですね。

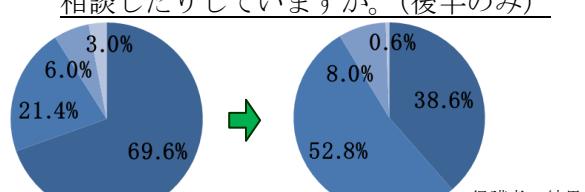


学校・家庭の連携について

Q. 先生にいろいろな話をしたり、相談したりしていますか。（後半のみ）



Q. おうちの人いろいろな話をしたり、相談したりしていますか。（後半のみ）



ここでは、学校・家庭の連携の項目から、子どもたちが、自分のことを大人によく話しているかという結果について報告いたします。

子どもが先生やおうちの人などにいろいろな話や相談をしているかという設問ですが、毎回の傾向で、おうちの人には比較的の話や相談をしていますが、先生に話や相談すると答えてる評価がやや低いという特徴が見られます。しかしながら、教職員の評価を見るといつも高いポイントが出ており、その差が気になっておりました。スマイル評価部会の方にもそのずれについて指摘されており今回、教職員には別途、クラスの子どもたちの中でどのくらいの割合の子どもたちが先生にいろいろな話をしたり相談したりしているかアンケートをとりました。

その結果を下記に記載いたします。これを見ると、「よく話している」30%「だいたい話している」44%となっており、プラス評価を合わせると約74%となります。この結果は、児童の結果約78%とそれほど乖離していません。ただし、この結果から分かることは、担任の意識からもクラスで約25%の子どもたちは、担任に話したり、相談したりできていないということです。

この結果を真摯に受け止め、約25%の子どもたちがより先生に話しやすい環境づくりしていく努力が必要を感じています。来年度に向けてさらに子どもたちが何でも話せる環境となる学校づくりをしていきたいと思います。

「先生に話しやすい雰囲気をつくることで、子どもたちは、先生にいろいろ話したり、相談したりしていますか。」と担任に質問した結果です。

